

別記様式（第6関係）

		担当課	上下水道部経營業務課												
会議の名称	第1回鴻巣市上下水道事業運営審議会（下水道事業）														
開催日	令和7年7月10日（木）														
開催時間	午前 13時30分 開会 ・ 午後 15時 30分 閉会														
開催場所	鴻巣市役所本庁舎4階大会議室														
議長（委員長・会長）氏名	会長 山岸 和人 副会長 山田 和幸														
出席者（委員）氏名（出席者数）	山岸和人（会長）、山田和幸（副会長）、武田恵子、横山正已、吉田征人、山下泰明、日野努、高橋淳一（8名）														
欠席者（委員）氏名（欠席者数）	笠原実、黒澤章（2名）														
事務局職員職氏名	<table border="0"> <tr> <td>上下水道部長 大堀 勝彦</td> <td>上下水道部副部長 伊藤 正一</td> </tr> <tr> <td>経營業務課長 矢澤 恭子</td> <td>下水道課長 田口 裕一</td> </tr> <tr> <td>経營業務課副課長 原 健太郎</td> <td>経營業務課副課長 瀬山 博</td> </tr> <tr> <td>下水道課副課長 横田 秀之</td> <td>下水道課主幹 布施田 薫</td> </tr> <tr> <td>経營業務課主査 金子 淳子</td> <td>経營業務課主任 中山 智仁</td> </tr> <tr> <td>経營業務課主事 岡野 美香</td> <td>経營業務課主事補 榊田 佑奈</td> </tr> </table>			上下水道部長 大堀 勝彦	上下水道部副部長 伊藤 正一	経營業務課長 矢澤 恭子	下水道課長 田口 裕一	経營業務課副課長 原 健太郎	経營業務課副課長 瀬山 博	下水道課副課長 横田 秀之	下水道課主幹 布施田 薫	経營業務課主査 金子 淳子	経營業務課主任 中山 智仁	経營業務課主事 岡野 美香	経營業務課主事補 榊田 佑奈
上下水道部長 大堀 勝彦	上下水道部副部長 伊藤 正一														
経營業務課長 矢澤 恭子	下水道課長 田口 裕一														
経營業務課副課長 原 健太郎	経營業務課副課長 瀬山 博														
下水道課副課長 横田 秀之	下水道課主幹 布施田 薫														
経營業務課主査 金子 淳子	経營業務課主任 中山 智仁														
経營業務課主事 岡野 美香	経營業務課主事補 榊田 佑奈														
傍聴の可否（傍聴者数）	傍聴可（傍聴者 0名）														
会議の内容	1 開会 2 委員委嘱 3 委員・事務局の紹介 4 会長・副会長の選出 5 市長諮問、挨拶 6 議題 (1) 審議会の進め方について (2) 鴻巣市公共下水道事業について 7 その他 8 閉会														
	（決定事項など） 次第に沿って事務局が説明を行う。 ◆会長に山岸委員、副会長に山田委員を選出する。 ◆次第6議題（1）「審議会の進め方について（案）」資料3 事務局案を説明し、了承される。 審議会は全5回。 ◆次第6議題（2）「鴻巣市公共下水道事業について」資料4 事務局案を説明し、了承される。 ◆議事録はホームページにて公開するとともに、書面は市役所本庁舎、吹上支所及び川里支所の市政情報コーナーに設置する。														

審議委員からの質問、意見は以下のとおり。

【議題に対しての審議委員からの質問、意見】

◆次第6 議題（1）審議会の進め方（案）（資料3）

○資料3・P7 10月、11月あたりの日程はいつ頃決まるのか。（委員）

→第3回は令和7年10月10日金曜日、午前10時開始を予定、

第4回は令和7年11月14日金曜日、午前10時開始を予定、

第5回は令和8年の1月16日金曜日、午前10時開始を予定とする。（事務局）

◆次第6 議題（2）鴻巣市公共水道事業について（資料4）

○資料4・P15 水洗化率ですが、通常ですと右肩上がりになっていくと考えられるが、数字が前後している要因を説明してほしい。（委員）

→整備面積が増えると下水道に繋ぐことができる人、処理区域内人口は増えるが、すぐに接続しない人がいるなど水洗化人口の増加が少ない場合は、一時的に水洗化率が下がることもある。（会長）

→指摘のとおり、100%整備がされていれば、右肩上がりになるが、まだ整備中であることを考えると、水洗化率の一時的な減少も起こりえる。（事務局）

○資料4・P18 収入に占める一般会計補助金の割合について、平成25年度は23.5%、令和4年度は15.7%で下がっていることが読み取れる。公共下水道事業の供用開始当初はこの補助金は0%だったのか。また、使用料改定の目標は、補助金をゼロにすることなのか確認したい。（委員）

→供用開始当初は使用料収入がほぼなく、内部留保資金もないため、一般会計からの補助金が多かったと推測される。補助金は不足分を補う性質のものであり、最終的な目標は、補助金ゼロによる独立採算であると考えているが、今後ご審議いただきたい。（事務局）

○資料4・P17 老朽化が課題であり、令和7年1月の八潮市の事故もあり、老朽化への対応は注目されている。鴻巣市の老朽化対策はどのようになっているか、現在の取組状況と今後の予定について教えて欲しい。（会長）

→鴻巣市では令和6年度時点で約44.2kmの下水道管路が整備されており、最も古い施設は40年以上経過している。長期的な施設管理の必要性から、平成30年度に「ストックマネジメント計画」を策定した。現在、老朽化したマンホール蓋の交換や、汚水管路施設の健全度調査を継続的に実施し、異常が確認された施設は速やかに修繕を行っている。また、令和5年度には第2期ストックマネジメント計画を策定し、今後も効率的な維持管理を推進する。（事務局）

→鴻巣市では大規模な更新事業を見据え、現在は計画策定と調査を進めている段階と認識した。下水道施設を「ストック」として捉え、機能不全に陥る前に対応することが重要である。また、管路の法定耐用年数は50年だが、適切な管理により長期利用が可能となる。現状はそれほど老朽化が進行しておらず、安全性が保たれているようだが、今後の老朽化に備え財政基盤を強化する時期にあるとの認識をした。（会長）

○資料4・P15 普及率とは何か教えてほしい。（委員）

→公共下水道は鴻巣市全域を対象としておらず、概ね市街化区域を整備区域としている。処理区域内人口とは、公共下水道に接続可能な地域の人口で、普及率とは、鴻巣市の全人口に占める処理区域内人口の割合を示した指標である。

（事務局）

○資料4・18ページ 一般会計補助金について説明してほしい。下水道を利用していない市民の税金が、下水道使用者のために一般会計補助金として利用されているということか。（委員）

→ご質問のとおり、一般会計補助金は、広く市民の皆様からお預りしている市税の

中から、一般会計補助金として下水道事業で不足する財源に補てんされている状況である。(事務局)

- 使用料改定の目的は、一般会計からの補助金をゼロにすることか。例えば、過去の改定事例を参考に、20%程度の値上げで補助金ゼロを目指すのか。あるいは、他市並みの標準的な使用料に調整し、補助金を一部残す方向性もあるのか。段階的に補助金を減らすのか、一度にゼロにするのか、方針を知りたい。

(委員)

→使用料改定の方向性は、今後の審議で委員の皆様の意見を踏まえて検討する。最終目標は補助金ゼロによる独立採算だが、具体的な改定方法についても審議会でご審議いただく。(事務局)

- 資料4・P15 有収率の記述があるが、無収率20%の対策はどのように行われているか。20%分は流域下水道へ無駄なお金を払っているということか。また、金額にするとどれぐらいになるのか。

→無収率20%への対策として、マンホール蓋交換による雨水の浸入防止、ストックマネジメント計画策定時の健全度調査による不明水の混入調査等を実施している。過去に一部の地域で不明水調査を実施していたが、現在は実施していない。

(事務局)

→雨水の誤接続調査や、不明水調査を行う必要はないか。(委員)

→不明水対策は対応が難しいと言われている。しかしながら、使用料の改定にあたっては、このような難しい課題にもしっかりと取り組んだ上で、使用者や市民の理解に繋げる必要があると思われる。(会長)

- 上水道だと分かりやすいが、下水の量は各家庭で測定しているものか。(委員)

→下水道の使用量は、原則、水道メーターで測った使用量と同量としている。全国的にどの事業者でも採用されている方法である。(事務局)

- 資料4・P17 鴻巣市では過去に下水道に起因する道路陥没事故はあったか。

(委員)

→鴻巣市では下水道に起因する大きな道路陥没はこれまで発生していない。

(事務局)

- 参考資料(経営戦略改定版)・P71 マンホールが液状化して地上に浮上した写真があるが、これは鴻巣市でのことか。(委員)

→写真は新潟県中越地震時の新潟県内自治体のものである。(事務局)

- 参考資料(経営戦略改定版)・P33 有収水量の見通しの1行目、「1人当たりの有収水量(水需要)は現状と比べ、ほぼ変わらずに推移すると予測される」の根拠を示して欲しい。(委員)

→これまで、節水意識の向上と機器の普及により、1人当たりの水需要が減少してきた傾向はあるが、将来、今までと同様の減少率で推移することはないと予測し、令和4年度の実績をもとに試算した。(事務局)

- 参考資料(経営戦略改定版)・P2 「ストックマネジメントとの整合を図る」とあるが、どのようなことで整合を図ったのか。(委員)

→ストックマネジメント計画での老朽化対策等の内容を、経営戦略の投資・財政計画に反映した。(事務局)

- 資料4・P15・P27 固有の専門用語には解説や、数字の表記のみでなく模式図などを利用して市民への理解を深める工夫が欲しい。(副会長)

→普及率や水洗化率などは、数値を並べるだけでなく、市全体の図面に見やすく区域を示し、視覚的に理解ができるようにしてはどうか。また、投資・財政計画は

	<p>表のみだとわかりにくいので、図でわかりやすく収支の説明をするなどの工夫が必要かと思う。さらには、先ほど議論になった、「段階的に補助金を減らすのか、一度にゼロにするのか」についても、各段階で必要となる使用料の水準を示すなど、資料作りも工夫してほしい。(会長) →次回審議会にて資料を提示したい。(事務局)</p> <p>○参考資料(経営戦略改定版)・P105, P68 雨水幹線の整備として「令和10年度までに7.1kmの整備」と記述がある。令和4年度時点で7kmの幹線が整備されており、残りの100mが完成していないのはなぜか。(委員) →国の事業である上尾道路整備の進捗にあわせ整備予定の箇所があり、完了していない区間がある状況である。(事務局)</p> <p>【連絡事項】 ◆第2回鴻巣市上下水道事業運営審議会(下水道事業)は、令和7年8月8日(金)午前10時より開催することとした。</p>
配布資料	<p>次第 資料1 審議会委員名簿 資料2 鴻巣市上下水道事業運営審議会条例 資料3 審議会の進め方について 資料4 鴻巣市公共下水道事業について 参考資料 鴻巣市経営戦略改訂版(本編及び概要版)</p>

注 会議の内容の欄は、主な意見や質疑内容を交えて概要を記載し、記載事項が多い場合は、別紙に記載するものとする。